

2015. 1. 25 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2015年

<聖化の豊かさを味わう>「聖化の説教」⑤

「終活 人生のフィナーレにこだわる」(創世記 50:22-26)

蒲田シオン教会・石田敏則牧師

「ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、『神は必ずあなたがたを顧みて下さるから、その時、あなたがたは私の遺体をここから携え上げて下さい。』と言った。」(創世記 50:25)

序：ヨセフの生涯

- ・ヨセフ物語は、創世記の 1/3 を占める程重要
- ・キリストの型 (共通的要素が多い)
- ・「終活」にこだわった人：特に埋葬地に
なぜヨセフは埋葬地にこだわったのか？

1. 実際に生きていた土地(エジプト)を意識していたから (24 節)

- ・エジプトは、売られてやってきた土地ではあるが、神の臨在を意識しつつ生き、多くの人を祝福に導き、イスラエル民族の基礎も築いた大切な「生活の場」であった。
- ・地に足をつけた生き方をしたヨセフだからこそ、埋葬地にもこだわった。

2. 最終ゴールを意識したから (29 節)

- ・エジプトでの成功は、最終ゴールではなかった。アブラハム、イサク、ヤコブに約束された土地に帰ることが最終ゴールであった。
- ・自分たちは、旅人・寄留者であるという自覚を持っていた。

3. 最終ゴールを周りの人々、後の世の人々にも意識してほしかったから

- ・ 臨終に際してヨセフは、自分の遺骸をカナンに持ち帰って埋葬するように周りの人々に誓わせた。それは、イスラエル民族がエジプトという現世にどっぷり浸って腰を落ち着けることが無いようにとの配慮でもあった。
- ・ 尤も、実際にヨセフの遺骸がモーセによって運び出されたのは、数百年後であった。
- ・ その間、ヨセフの遺骸は、神の約束の地に関する希望の徴として、人々に励ましを与えた。遺言から執行までが長期間であったのは、①最終ゴールまでには多くの困難がある；②しかし、そのプロセスの中でも、人々に証し続けることができる；③多くの人々が忘れずに彼の思いを受け継いできていることを示す。

「彼は死んだが、信仰によって今なお語っている」(ヘブル 11:4)

私たちも、埋葬の仕方に拘ることで、永遠を目指して生きているという生き方を周りの人々に伝える。「信仰によって、ヨセフは臨終の時、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。」(ヘブル 11:22)